

施設番号	66-0600
施設名	白梅保育園
施設所在地	花小金井南町 2-12-5
法人名	社会福祉法人小松福社会

1、活動のテーマ

わらべうた（0歳児クラス）

<テーマ設定理由>（テーマに関する子どもの探求心、園の特色など）

入園を祝う会でわらべうたをうたうと動きを止め、興味を示し注目して聴く姿があった。園の特色である一人ひとりの子どもを大切にするわらべうたを通してかかわりの中での触れ合いや楽しさや心地よさを体験し重ね愛着関係を育んでいきたいと考えたため。

2、活動スケジュール

- ・毎月のわらべうたを計画。（4～3月）
- ・入園を祝う会で大人からわらべうたのプレゼントをする。（4月）
- ・クラスだよりでわらべうたの紹介（4月、10月）
- ・あそぼう会（普段のあそびを親子であそぶクラス行事）でわらべうたを紹介。（11月）

3、活動のために準備した素材や道具、環境の設定

◎素材・道具

- ・シフォン布（大・小）、お手玉（大・小）、リング、チェーン、バランスストップ

◎環境設定

- ・声の大きさやテンポで視線を合わせてスキンシップを図り、一人ひとりと向き合うことを意識する。
- ・ゆっくり丁寧に繰り返したい、大人と一緒に心地よさを感じながら楽しさを共有できるようにする。

4、探究活動の実践

<活動の内容>

- ・毎日の生活やあそびの場面で子どもの興味や発達に合ったものや季節のうたをうたに触れる。見る、聴く、人と触れ合い、体を動かしてあそぶ体験を積み重ねる。

<活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり>

- ・布を使って『ジージーバー』のわらべうたであそび終わると手に持っていた布を大人の手へのせ、もう一回うたってほしいことを表現する。「もういっかい？」と大人がことばにして聞くと満足そうに微笑み返す。
- ・あそぼう会で保育室に保護者も集まり、いつもとは違った環境に戸惑い泣く姿があった。いつもあそんでいるわらべうたを大人がうたいはじめると泣き止み、保護者と視線を合わせ笑顔になる。その後は、気持ちを切り替え、保護者の元から離れてあそぶ。
- ・「トウキョ」と言いながら大人の手を取り、指先で触れ『トウキョウト』をうたってほしいことを伝える。大人のうたに合わせて「とー」とうたいながらいつも大人にやってもらっている仕草を真似て大人の手に触れてやろうとする。
- ・一対一で『さよならあんころもち』をうたってあそんでいると、興味を持った子が近付いてくる。「Aちゃんも一緒にやる？」と手を差し伸べると一緒に繋ぎ、手を振ってリズムをとり視線を合わせながら笑い合う。その後、繰り返したい続けると大人が繋がなくても子ども同士で手を繋いであそび始める姿があった。
- ・大きなシフォン布を用意し、大人が広げてみせると興味を持ち子どもたちが集まる。『うえからしたから』のうたに合わせて布を上下に揺らすと布の動きを見る、手を伸ばして触れようとする、「わー」と大きな声をあげる、大人や子ども同士で視線を合わせ、楽しさを共有しようとする姿があった。小さな布で遊ぶ時とは違い、大胆な動きや反応を見せる。小さなシフォン布を探しに行き手に取って同じように振って遊ぶ子もいた。



5、振り返り<振り返りによって得た大人の気づき>

- ・一人ひとりの肌に触れ、心を通わせることを大切にしてきたことで人とかかわる喜びや安心感となり愛着関係も深まっていった。その関係を基盤として様々なことに挑戦し探求ながら感じて学び、心や体の育ちにも繋がっていった。(意欲や安心感、ことばの獲得、運動発達、表現力、聴く力、人とのかかわり等)
- ・わらべうたのゆったりとしたリズムや簡単な言葉の繰り返し、音域が狭い等、一般的な歌よりも覚えやすく0歳児でも親しみやすいことを実感した。
- ・わらべうたが好きになる→繰り返しあそびたい！→“もう1回”“やってちょうだい”等、相手に思いや要求を伝える術（仕草や言葉、表情等）を学んでいった。
- ・うたのことばを真似ることばの幅も広がり話すこと、声を出して表現する姿に繋がった。
- ・一年を通してわらべうたに触れてきたことで大人に一対一でうたってもらう→子どもたちからうたってほしいと要求する、子どもから子どもへと姿やかかわりも変化していった。変化していく子どもたちの姿から大人もわらべうたの良さ感じられた。